

あかぎ通信 No.18

あかぎ会議(第20回)を開催

令和8年3月17日(火)に前橋市赤城少年自然の家において「あかぎ会議(第20回)」を開催しました。

当日は、地元と自然環境団体等の方々29名にご参加いただきました。

あかぎ会議(第20回)の概要

日時: 3月17日(火) 13:00~14:30
場所: 前橋市赤城少年自然の家
(研修室)
参加者: 11名(地元の方々)
18名(自然環境団体等の方々)

- 1 開会・挨拶
- 2 赤城山景観ガイドライン標準看板デザインについて
- 3 県立赤城公園グランドデザインの検討状況について
- 4 大沼C Fの開業について
- 5 鳥居峠の駐車場区画線設置について
- 6 その他

会議の様子





赤城山景観ガイドライン標準看板デザインの作成について

- 赤城山景観ガイドラインに基づく統一的な景観形成を促進するため、指標となる標準的な看板デザインを作成する予定である。
- 標準デザインは、「赤城山景観ガイドライン 別冊 標準看板編」としてまとめ、令和8年度の春頃に完成させたいと考えている。
- 現時点での案について説明するため、ご意見等をいただきたい。
- なお、県では、作成した標準デザインに基づく県有看板の再整備工事を令和8～9年度にかけて実施したいと考えている。

※以下当日説明資料より抜粋

1-2 5つのポイント

看板をつくる前に

看板を更新する際、または新設する際、事前に、本当にその場所に必要なのかどうかを検討することをお勧めします。

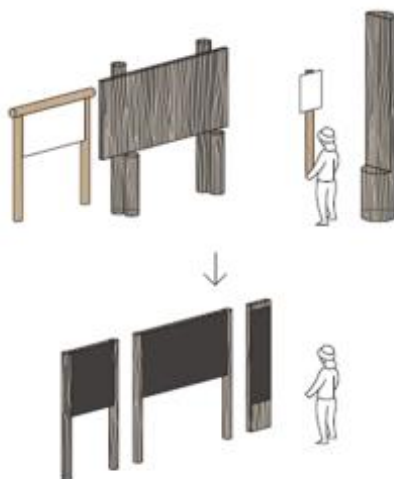
一度掲出した情報を取り下げることが、新たに作ることよりも難しく、必然的に看板は増えていく傾向にあります。看板の数を一つでも減らすことで、人工物や文字情報が減少し、自然景観が際立つことにつながるため、赤城山の魅力をより感じてもらいやすくなります。

上記を踏まえたとえでも、自然保護、安全性の確保、経済活動の観点等で設置が必要な場合には、後述の「5つのポイント」の考え方に則り、配置、素材、形態、色などを検討することで、赤城山にとって良好な景観をつくることができます。

なお、本書に記載されている内容はあくまで例であり、設置場所や寸法、素材の考え方など、その場に応じた適正な対応が必要となります。

1. 配置を揃える

隣合う看板や近くにある看板は視認性を考慮した上で、できる限り設置する位置、向き、高さ、隙間などを揃えることでまとまりをつくり整然と見えます。重複した情報やバラバラに並んでしまった看板はまとめて、情報も集約されて見やすく効果的に情報を得ることができます。



2. 素材・形態を揃える

新しい看板が、既存の看板よりも個人的で目立つ必要は必ずしもないと考えます。長くその場所にある素材や形には相応の理由があるかもしれません。既存の看板にデザインを寄せて継承するか、古い看板は整理して新しいデザインに一新するか。本来見せたい景観を守るための公平な判断が必要です。



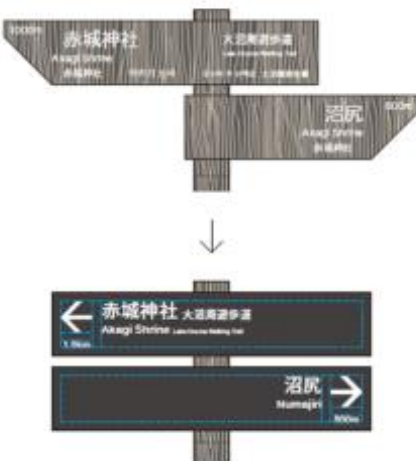
3. 色を揃える

看板によって表示ベースや文字の色が違っていると、雑然とした印象になってしまいます。また、色数の多い表示や、過度に鮮やかな色の表示は、自然景観の中で意図せず目立ち、煩雑で読み取りづらくなりがちです。ベースの色を揃え、色数を絞ることで、見せたい情報を見やすくすることができます。



4. 表示を揃える

適切なマージン(余白の領域)を設定した上で、右揃え、中央揃え、左揃えなど、表示にルールを与えると、美しく整然としたデザインとなります。ピクトグラムや見出しなどの同じ要素は同じ配置や大きさとして、文字の間隔や行間を揃えること、日本語と外国語やピクトグラムと文字などの関係を揃えることも重要です。



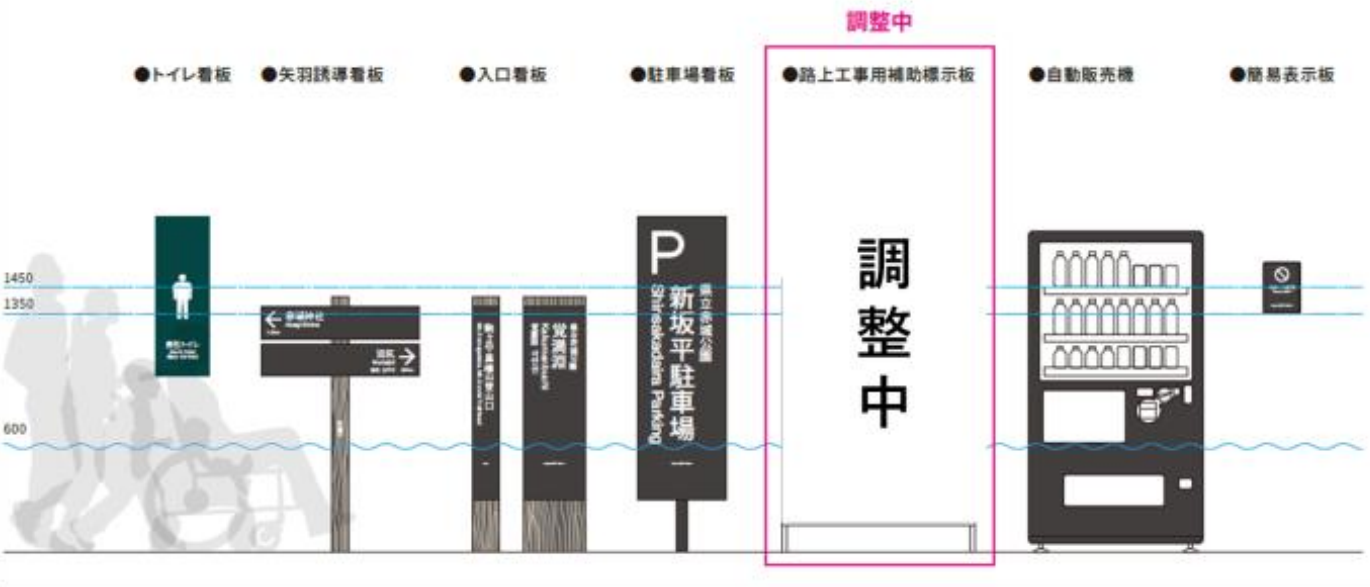
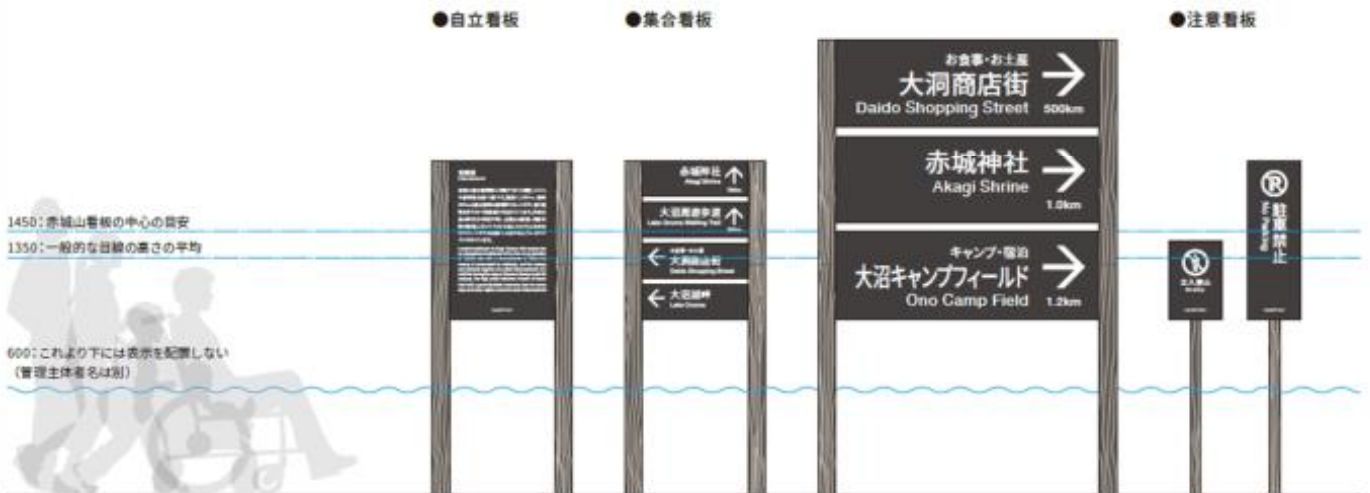
5. 情報を揃える

施設名称が場所によって違ったり、内容は同じなのに違うピクトグラムが使われていたりすると、情報を読み解くのに時間がかかったり、混乱を招いたりする恐れがあります。ゆらぎがでやすい地名、施設名称、翻訳、注意書きの口調など、表記は可能な限り揃えていくことで、まとまりのある印象となります。



3-1 看板の種類

- ・屋外に掲出する看板を中心に標準デザイン例などを取り上げます。
- ・一般的な目線の高さの平均は地面から1350mmとされていますが、赤城山では地形の起伏や積雪、植物の成長などを考慮し、100mm高めに設定し、地面から600mmまでの範囲には表示を配置しないことが望ましいです。



【赤城山景観ガイドライン標準看板デザインの作成に関する質疑応答】

- ・冬の除雪を考慮した高さ設定をしておいた方がよいのではないかと。
⇒看板設置時に想定される「平均的な目線の高さ」及び「案内板（管理主体名は除く）の最低高さ」は、それぞれ1,350mm、500mmとなるが、赤城では積雪を考慮し、それぞれ+100mmして、1,450mm、600mmで設定している。なお、実際の設置場所が除雪する際に問題ないかどうかは設置者と除雪組合で協議することとしたい。

※その後、看板事業者等と意見交換を進める中で、目線の高さを1,450mmに設定するとほぼ既製品の看板を使用することができず、再整備における費用負担等が増大することが判明したため、目線の高さについては、1,350mmに変更することを検討している。なお、その場合も積雪を考慮して案内板の最低高さは600mmのままとする予定である。

県立赤城公園グランドデザインの検討状況について



- 令和4年度に策定した「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」で掲げる「赤城ウェルグラウンド構想」の実現に向け、現在取り組んでいるフェーズ1（大沼CF・赤城VC整備）に続く、フェーズ2・3を推進していくため、官民共創の共通指針となる「グランドデザイン」の策定（令和8年秋公表目標）を予定している。
- 同グランドデザインにおけるビジョンについては、令和8年2月に実施した「県立赤城公園グランドデザイン策定WS」でいただいた意見を踏まえて検討を進めている。
- 活性化を推進するために必要となる「相互に情報交換を行うための組織」の立ち上げや基本構想で掲げた「地域マイスター制度」をどのように運用していくかについても地元関係者と意見交換を行いながら検討していきたい。

大沼CFの開業について



- 大沼CF及び赤城VCのネーミングライツについて資料を用いて説明。
- スノーピーク赤城キャンプフィールド（大沼CF）の開業について資料を用いて説明。
- 関係者向けの見学会を4月23日（木）に実施する予定のため、別途案内を送付する。

県立赤城公園 2 施設の愛称決定

ネーミングライツパートナー：株式会社スノーピーク

愛称使用期間：令和8年度から令和17年度 契約金額：年額100万円（2施設）



→スノーピーク 赤城キャンプフィールド →スノーピーク ランドステーション赤城

スノーピーク赤城キャンプフィールドがオープン



予約受付開始日

2026年3月23日(月)

オープン日

2026年4月25日(土)



←詳細は
こちらから

※スノーピークランドステーション赤城は2026年秋以降のオープンを予定

【特集】スノーピーク赤城キャンプフィールド ＜オープン前見学会＞

スノーピーク赤城キャンプフィールドのオープンに先立ち、令和8年4月23日（木）に関係者向け事前見学会を実施しました。





鳥居峠の駐車場区画線設置について

- ・ 鳥居峠の駐車場区画線設置について、資料を用いて説明。
- ・ 区画線設置の支障となる木製標示板については撤去を予定しているが、撤去されても問題ないか確認したい。
- ・ また、視点場への休憩場所設置及び歩行者の安全確保の観点から、覚満淵側の歩道内部に県産材のベンチを設置する予定である。

鳥居峠の駐車場区画線設置について

駐車区画線設置(案)



「ほぼの駅」開業に伴い、
 駐車台数も増加したため、
 利用者の安全性・利便性を
 確保するため、区画線
 (トラロープ)を設置します。

＜実施時期＞
 令和8年4月上～中旬頃

＜施工者＞
 (株)国建工業



【鳥居峠の駐車場区画線設置に関する質疑応答】

- ・ 撤去予定の木製標示板については、
 自然環境学習の説明時に活用している。
 ⇒ない場合は他の場所でも対応可能か。
 →場所にもよるが対応できると思う。
- ・ 駐車場前の歩道部分は林間学校時に生徒が
 座ることもあるので、駐車場と歩道の間隔を
 少しあけてもらいたい。
 ⇒先ほどお話ししたベンチを歩道の駐車場側に
 設置することが、車が接近することに
 対する抑制につながると考えている。



＜木製標示板＞

➔大きな反対意見もないため、
 木製標示板については、撤去としたい。

＜区画線設置後の現地写真（鳥居峠）＞



＜ベンチ設置後の現地写真（鳥居峠・大沼湖畔）＞

- ・ 県産材ベンチについては、ゴールデンウィーク前に、通常ベンチ10基を鳥居峠、テーブルベンチ10基を大沼湖畔（大洞商店街～赤城神社元宮周辺）に設置済み。



その他情報提供

(1) 令和8年度当初予算（案）について

- ・令和8年度当初予算（案）に基づく実施予定事業について説明。
※後日同内容で予算可決済み。

①自然公園指定に向けた公園計画策定支援業務委託

- ・関係者向け説明会や公園計画案修正等を実施。

②看板再整備工事

- ・「赤城山景観ガイドライン」に沿った案内看板等を整備。

③小沼駐車場トイレ工事設計・測量

- ・臭気対策のため水洗トイレに改修するための設計等を実施。

④覚満淵シカ柵設置

- ・対策強化のため防護ネットをメッシュフェンスに変更する。

- ・大沼北岸トイレ整備工事については、令和7年度2月補正で可決済みのため、現在入札手続きを行っている。（株式会社サンビックが落札、契約済み。）

<質疑応答等>

- ・赤城山敷島停車場線のキャンプ場手前あたりに、雨天時等に水が溜まる箇所があるが、何とか対応してもらえないか。

⇒T字路のキャンプ場側は4月に舗装工事を行うので、その後の状況等も見ていただきつつ、状況が変わらないようであれば、現地の写真を撮って送っていただきたい。内容を確認の上、土木事務所と相談したい。

- ・旧テニスコートの駐車場は来年度も無料で使えるのか。

⇒来年度からはスノーピークの指定管理となるため、県とスノーピークで協議して決めることとなるが、来年度は無料となる予定である。

- ・覚満淵のシカ柵は1年で設置が完了するのか。

⇒受託者の状況による部分もあるが基本的には1年間で完了する予定である。

(2) 赤城VC駐車場前の横断歩道位置について

- ・これまで説明してきた横断歩道の移設については、県警が「人の往来があること」を確認した後に実施する予定のため、施設オープン時は現在の位置のままとなる。

